

2008年度わが国貿易収支、経常収支の見通し(商品別輸出)

平成19年12月5日(水)

輸 出	2006年度 (実績)		2007年度 (見込み)				2008年度 (見通し)		コメント		
	億円	伸率%	上半期		下半期		億円	伸率%			
			(実績)	(見込み)	(実績)	(見込み)					
			2007年度				2008年度				
総額	774,624	+13.4%	418,443	+11.9%	438,080	+9.3%	856,523	+10.6%	910,259	+6.3%	
EX 食料品	3,770	+15.1%	1,997	+17.6%	2,381	+14.9%	4,378	+16.1%	4,885	+11.6%	総額の約5割を占める魚介類・調製品は、香港、中国、韓国などアジア向けを中心に、ざけ、ます、まぐろ、さば、たら、なまこなど水産物調製品、ホタテ等が好調。
EX 原料品	9,401	+20.7%	5,372	+16.7%	5,555	+15.8%	10,927	+16.2%	11,894	+8.8%	総額の約4割弱を占める鉄鋼(ずば、建築基準法改正による国内メーカー向け出荷の減少分が輸出に回り、数量ベースではプラス要因、価格ベースでも高い伸びが続く。バルブ及び古紙も、高い伸びが続く。
EX 鉱物性燃料	7,066	+32.5%	5,271	+40.2%	6,600	+99.6%	11,871	+68.0%	11,040	7.0%	軽油及び灯油の輸出は上半期に倍増、下半期以降もエネルギー価格の高騰を背景に軽油と灯油の輸出の伸びが続くことが見込まれ、07年度の輸出は大幅増となる。
EX 化学製品	70,048	+14.3%	38,872	+15.2%	40,815	+12.4%	79,687	+13.8%	85,243	+7.0%	原油高、ナフサ高により、化学製品の価格は一段と高まっており、アジア向けを中心に輸出の好調が続いている。07年度下半期には、プラスチック、有機化合物、無機化合物の価格がさらに上昇し、全体では、06年度をやや上回る増加となる。
EX 原料別製品	90,002	+16.9%	50,303	+15.6%	51,047	+9.8%	101,350	+12.6%	103,000	+1.6%	非鉄金属を中心に商品市況の高騰に加え、中国、ASEANなどの東アジア、欧州、中東の需要も旺盛であるため、数量、価格とも高水準の伸びを維持。
鉄鋼	36,468	+16.6%	20,434	+18.7%	20,191	+4.8%	40,625	+11.4%	37,538	7.6%	07年度に続き、アジア経済の好調に支えられ、引き続き高水準で推移。輸出数量、ドル価格とも、ほぼ横ばいを維持するもの。中国の影響から金額は減少し、住宅調整が続く(米国経済の減速や、中国の鉄鋼生産・輸出数量などの懸念材料に注視。
非鉄金属	13,513	+53.1%	8,060	+26.1%	9,150	+28.5%	17,210	+27.4%	18,600	+8.1%	銅及び合金は、LME(ロンドン金買取引所)銅地金価格が引き続き7,000-8,000ドル/トンの高値圏で推移し、数量も堅調、アルミ及び同製品は、上半期は缶材の輸出が輸出量全体の増加を支えており、下半期も特に中東向けの勢いは続き、上半期同様の伸びを見込む。
織物用糸・繊維製品	8,032	+6.1%	4,184	+3.9%	4,098	+2.3%	8,282	+3.1%	8,428	+1.8%	繊維素材は、主力のアジア向けが中国の供給力増強により伸び悩む一方、欧州向けの高級素材が円安による価格競争力向上から増加基調。自動車など産業用途向けの特殊織物及び同製品は、海外で生産していない特殊素材を中心に高い伸びが続く。
非金属鉱物製品	8,780	+10.3%	4,774	+10.6%	4,898	+9.8%	9,672	+10.2%	10,430	+7.8%	総額の約5割を占めるガラス及び同製品は、韓国向けを中心に底堅い動き。炭素繊維製品も米国、中国向けを中心に堅調。
EX 一般機械	152,596	+11.1%	83,927	+12.8%	82,827	+5.9%	166,754	+9.3%	178,426	+7.0%	上半期は、主要品目である原動機が12.8%増と堅調。電算機類・部分品やポンプ及び遠心分離機も増加しているため、07年度は9.3%増。
電算機類(含周辺機器)	8,476	+6.6%	4,529	+10.0%	4,453	+2.1%	8,982	+6.0%	9,700	+8.0%	上半期は、輸出品目の高付加価値へのシフトに伴い、価格が22.9%高と大幅に上昇した反面、数量は10.5%減となった(金額ベースでは10.0%増)。07年度通期では、金額ベースで6.0%増。
電算機類の部分品	18,297	+8.0%	9,275	+4.8%	10,012	+6.0%	19,287	+5.4%	20,251	+5.0%	上半期は、価格が3.3%下落した反面、数量が9.3%増となった(金額ベースでは4.8%増)。半導体部品のモジュール化の進展に伴い、今後とも輸出数量の増加基調が続く。07年度通期では、金額ベースで5.4%増。
EX 電気機器	164,103	+9.2%	84,395	+5.6%	87,113	+3.5%	171,508	+4.5%	182,485	+6.4%	半導体等電子部品が堅調に伸びているが、音響・映像機器の部分品が大幅に下落していることもあり、06年度比伸びは鈍化。映像機器は、海外での現地生産化や海外メーカーの売上拡大などもあり、趨勢的に減少する傾向にあり、07年度下半期も下落傾向が続く。音響・映像機器の部分品は、06年秋分から急激な減少を続けており、07年度下半期は、上半期に比べ若干水準が戻るものの、低水準が続く。
半導体等電子部品	50,612	+11.7%	25,869	+8.7%	28,043	+4.6%	53,912	+6.5%	58,672	+8.8%	06年度上半期には一時的な踊り場状態に陥ったが、年央には脱し、堅調に増加を続けている。07年度下半期も、薄型テレビや携帯音楽プレーヤー(iPod等)などの需要拡大を背景に増加基調が続く。
EX 輸送用機器	188,871	+17.9%	100,622	+13.7%	114,969	+14.5%	215,591	+14.1%	235,754	+9.4%	自動車は、軟調な米国向けを好調なEU、アジア向けがカバー。中東、ロシアなどの資源国も高い伸び。船舶は、トン数は横ばいだが、トン当たり船価が上昇し、高い伸び。
自動車	128,368	+22.2%	68,934	+14.9%	77,509	+13.4%	146,443	+14.1%	161,087	+10.0%	輸出の40%弱を占める米国向け台数は現地生産の増加、景気の先行き不透明感などで減少。EU、アジア向けは好調。ロシア、中東など資源国向けは台数ベースで30%を超える高い伸び。
自動車の部分品	30,785	+5.9%	16,895	+12.6%	17,900	+13.5%	34,795	+13.0%	40,014	+15.0%	軟調な米国向けを好調なEU、アジア向けがカバー。
船舶	15,848	+14.4%	8,377	+13.8%	11,371	+34.0%	19,748	+24.6%	19,154	3.0%	船価低迷期の受注分がまだ残っているが、船価は全般的に上昇中、数量は下半期に増加。
EX その他	88,769	+10.4%	47,684	+8.9%	46,773	+4.0%	94,457	+6.4%	97,532	+3.3%	高層相場の円安水準で推移したことから日本製の高付加価値品の価格競争力が向上。産業用部材や消費財など幅広い分野で堅調な伸び。
科学光学機器	23,238	6.9%	10,576	13.7%	9,926	9.6%	20,502	11.8%	21,117	+3.0%	HSコードの変更によりステップバーが一般機械に移動したため、減少。

*金額は千万円単位を四捨五入、ただし前年度比増減率(%)は百万円単位の数値を使用

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「↔」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している